

## ⑥黄体化未破裂卵胞:LUF

### LUF(luteinized unruptured follicle)とは

LUFとは卵胞から排卵しないままに黄体形成を認める事を意味します。少し難しいので基礎的な事を含めて説明します。通常卵胞が20mmに達すると排卵します。その後卵胞が黄体に変わります。黄体はプロゲステロンを分泌して視床下部の体温中枢に作用して体温が0.3度位上がります。

しかしLUFとはその排卵がうまくいかないまま(卵が卵胞内に残ったまま)黄体形成を認めます。内分泌学的には黄体化現象を示しますのでプロゲステロンは上がりその結果体温も上がります。

### LUFの診断

LUFは体温やホルモン検査では診断できず、高温期にエコーで排卵確認を行う必要があります。

### LUFの原因

原因がはっきりしていませんが以下の事が予測されます。

- ①子宮内膜症による癒着
- ②非ステロイド性消炎鎮痛薬によるプロスタグランジン合成障害
- ③LHサーージが不十分

### LUFの頻度

正常では5~10%、子宮内膜症患者では25%程度とされています。

### LUFへの対策

LUFを繰り返す長期の不妊の場合は以下の2つの選択肢があります。

- ①腹腔鏡下に卵巣周囲の癒着を剥離する:つまり卵巣周囲に癒着があることで物理的に排卵できない事が多く、これに関しては腹腔鏡下に容易に取り除く事が出来ます。
- ②体外受精を行う:LUFを繰り返す場合で手術を希望しない場合は採卵を行うことがLUFへの対策となります。

### ボルタレンを使うと排卵しない??

排卵時期にボルタレンを使用するとLUFになりやすい事がわかっています(LUFの原因の②にあたります)。そのため妊娠を希望する女性は排卵時期にはボルタレンを使用しない方が良いと言えます。このボルタレンとLUFの関係を逆に利用して、採卵の際にボルタレンを使用すると排卵を防いで採卵まで持たせてくれるという効果があります。排卵抑制目的にボルタレンを処方するクリニックがあるのはこのためです。

ボルタレンの添付文書には以下のように書いてあります。

「ジクロフェナクナトリウムを含む非ステロイド性消炎鎮痛剤を長期間投与されている女性において、一時的な不妊が認められたとの文献報告があるため追記いたしました。主な機序としては、プロスタグランジンが排卵に関与しており、非ステロイド性消炎鎮痛剤がそのプロスタグランジンの合成を阻害していることが考えられております。」